

帰国研修員からの報告 <その2>

今回は、野菜栽培技術 II コースを 2006 年に修了したクラウディオさん(ボリビア)と陸稲品種選定技術コースを 2009 年に修了したネネさん(マダガスカル)の活動を紹介します。

Claudio Penarrieta さん(ボリビア)

ボリビアの農業省が実施している PASA (Aid Program for Food Security) のプロジェクトのひとつである CRIAR (Creation of Rural Initiatives for Food Supply) で計画・モニタリング・評価をクラウディオさんは担当している。このプロジェクトは米州開発銀行の協力で 2015 年 5 月までつづく。ラパス(ボリビア西部)、ボトシ(同南西部)、チュキサカ(同中南部)、コチャバンバ(同中央部)の各県でプロジェクトは実施されており、現在、この地域の 43 市、16,000 家族と 80 の団体をこのプロジェクトは対象としている。そしてこれら地域やコミュニティを対象にした小規模灌漑施設(灌漑キット)や軽量農業機械や電気牧柵電や電気ポンプなどをこのプロジェクトで提供している。



ボリビア中南部のチュキサカ県(左)と標高 3,700m 南西部ボトシ県(右)での移動:業務をボリビア各県へ展開するにあたり、1,000km ほどの陸路移動はふつうで悪路がつづく、そのため四輪駆動車がたいへん役だっている。

対象農家のおよそ 13,600 農家は、平均 1ha の耕地を保有していて、そこではトウモロコシ、オオムギ、コムギ、果樹、野菜を栽培している。プロジェクトは水源の確保方法、作物にあわせた灌漑方法をアドバイスし、700m² 灌漑可能な灌漑キットを農家の 1 割負担で提供している。今まで 3,000 ほどの農家へ提供してきた。今後さらに 3,000 農家へ提供していく予定だ。



ボリビア中南部のチュキサカ県タリビタ市での灌漑キットのキャンペーン:

プロジェクト後半となりプロジェクトの評価方法についてクラウディオさんは準備をはじめた。また PASA-CRIAR での活動をひろく知ってもらうために 2 月のウェブサイト開設を目標に準備中である。

Lalanekenarisoa Nenee さん(マダガスカル)

バキナカロチャ県アンチラベ市(マダガスカル中央部)にマダガスカルで唯一の公立のアンチラベ農業機械化訓練センター:CFAMA (Centre de Formation et d'Application du Machinisme Agricole/ Training and Application Center of Agricultural Machinery) がある。ネネさんはこの職員であり、JICA プロジェクトの中央高地コメ生産性向上プロジェクト:M-PAPRIZ: (Project for Rice Productivity Improvement in the Central Highland of Madagascar) のカウンターパートでもある。

このセンターでは農業機械の開発・生産・研修をおこなっており、ここでネネさんは、122ha の畑地(陸稲、ダイズ、トウモロコシ)と 5ha の水田の維持管理を担当し、センターが実施している 4 つの研修コースで作物や野菜の栽培学(講義と実習の計 140 コマ/年)を教えている。また 2004 年から陸稲の種子生産も担当している。



陸稲品種圃場での播種溝作成と手作業による播種



発芽試験:陸稲品種 7 品種をつかった実験では、各品種の収量構成要素を分析し発芽試験をおこなう。

JICA 筑波でまなんだ陸稲の種子生産技術はたいへん役だっているし、日常の業務を改善するためによいアイデアをここから学んだようだ。日常業務をこなしながら JICA プロジェクトのカウンターパートとして忙しくはたらいっている。

(小野記)